

春号

令和3年
(2021年)

大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課 草津市草津三丁目14-75

●TEL 077-567-5421~5423 ●FAX 077-562-8144 ●メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp

●https://www.facebook.com/facetoagri.o.n ●発行責任者 笠井 剛

この印刷物は古紙パルプを配合しています

青年農業者クラブ季楽里の新しい取り組み

オンライン視察にZOOMを活用!!

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、人の集まるイベントや会議の代替え手段としてオンライン会議システム（ZOOM等）の活用が注目されています。

オンライン会議システムとは、複数の地点にあるパソコンやスマートフォンをインターネットで結び、映像、音声等を離れた場所にしながら共有できるサービスで、ZOOMもそのサービスの1つです。ZOOMを活用した取り組みの例として、大津市青年農業者クラブ季楽里（以下、クラブ）が行ったオンライン視察について紹介します。

クラブでは毎年、優れた経営体への視察を行ってきましたが、今年度はコロナの影響で従来どおりには実施できませんでした。そこで接触機会を減らしつつ、視察ができる方法を模索した結果、ZOOMを活用することで、現地へは少人数で出向き、その様子を他のクラブ員がリアルタイムで見学し、意見交換もすることができました。

オンライン視察では、スマートフォンがあれば多くのクラブ員が現地へ出向く必要はなく、日程調整に手間取ることがない点も魅力であり、視察以外にも食農教育の出前講座などに応用ができるのではないかとこの意見がでました。

ZOOMを活用した視察には当初不安や迷いがありましたが、大きな支障はなく実施できたことで、クラブ員が新たな取り組みにチャレンジすることへのハードルが下がったと感じています。今後も時代の変化を敏感に捉え、新たな取り組みを積極的に取り入れるクラブ活動を支援していきます。

視察先の農家の説明や
現地の様子の中継

地元で居ながら、送られてくる情報をパソコンを通してプロジェクターで映写



現地



会場

イチゴの滋賀県オリジナル品種が誕生します!!



滋賀県農業技術振興センターでは現在、イチゴの新品種の開発を進めています。これまでは、他県で育成され、本県での生産を許諾された品種が栽培されてきました。新品種の開発により、県産イチゴのブランド価値を高め、消費が拡大することが期待されます。

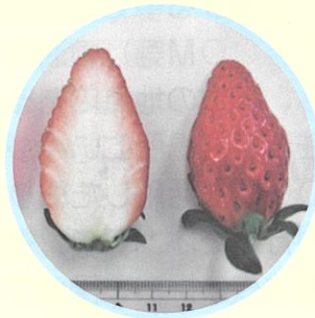
ニーズに合わせた開発コンセプト

県内で最も多く栽培されている品種『章姫』は、強い甘みを持ち、また主な県内の栽培方式（少量土壌培地耕、無加温、無電照）で生産した際の収量が高いことから消費者、生産者の両者に人気の高い品種です。しかし、酸味が弱いため春先に味が薄くなりやすく、果実が柔らかいことから、市場出荷等への適性が低いことが弱点でした。

そこで『章姫』とこれらを補う性質を持つ品種『かおり野』を交配し、

- ①本県の栽培方式で収量が高い
 - ②春先に糖度が低下しにくい
 - ③『章姫』より果実が硬い
- をポイントとして新品種の開発が行われ、現在は1系統（滋賀SB2号）にまで絞られています。

新品種の開発コンセプト



章 姫

- 甘みが強い
- 県内栽培方式に適している
- 収量が高い
- ×果実がやわらかい
- ×春先に味が薄くなりやすい

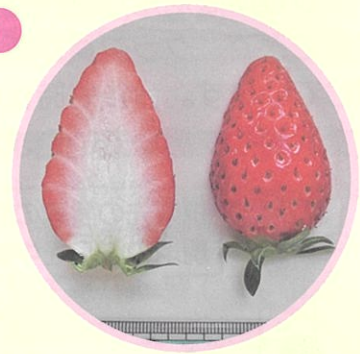


かおり野

- 甘みと酸味をバランスよく含む
- 果実が硬く輸送性が高い

新品種 滋賀SB2号(仮称)

- 甘みが強く、酸味も含む
- 春先に糖度が低下しにくい
- 県内栽培方式に適している
- 収量が高い
- 章姫より果実が硬い



新品種の栽培方法については、現在、県内各地で気象条件や栽培管理に合わせた現地試験が実施されています。当管内においても農業者の方に栽培を委託しており、普及センターは、栽培管理支援や農業技術振興センターへのフィードバックを行うなど、試験に協力しています。現地試験後は苗の増殖試験などが行われ、数年のうちに品種が登録される予定です。また、少しでも早く皆さんにお届けできるよう、普及センターとして農業技術振興センター、農業者との連携を深め、現場の技術課題を抽出し、解決に向けた活動を行います。

がんばる若手農業者

大津市 ひら自然菜園

加地 玄太さん

加地さんは、露地で有機野菜を生産する東近江市の農業法人で3年間研修されたのち、平成31年4月、大津市の露地67aのほ場で経営を開始されました。栽培期間中に化学肥料や化学合成農薬を一切使用せずに栽培した農作物を「ひら自然菜園」の屋号で、直接消費者への販売や直売所で販売されています。また、積極的に農産物マルシェに出展し、販路開拓にも取り組まれています。日々、栽培やほ場管理に熱心に取り組まれ、受託農地も約1haまで拡大されました。これからの活躍が期待されます。



大津市 真咲農園

小野寺 真樹さん

小野寺さんは、令和2年3月に滋賀県立農業大学校就農科を卒業され、大津市で屋号「真咲農園」として施設イチゴ経営(795㎡)を開始されました。大学在学中には、大津市のイチゴとトマトを栽培する篤農家の元で研修を受けられました。定植時期の作業を分散できる本ぽに直接定植する栽培やうどんこ病対策としてUV-Bランプの導入など、経営に合った技術を積極的に取り入れて栽培されています。令和2年12月には初出荷を迎え、庭先や直売所でのイチゴ販売を始められました。これからの活躍が期待されます。



で 受け継ごう びわ湖との共生
創ろう 私たちの未来



世界を目指す「日本農業遺産」

本・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖システム SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

詳しくはこちらへ (県HP)

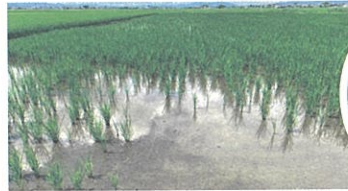


ピンク色の卵を発見したら要注意!

水田でジャンボタニシの被害が増加しています!!

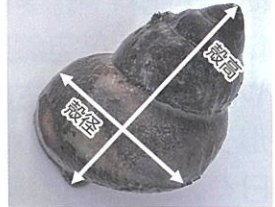
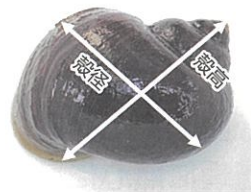
近年、暖冬の影響により管内の湖辺地域を中心にスクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）による水稻の食害が増加しています。

地域の実情に応じて、下記の防除対策を組み合わせ、被害を減らしましょう。



ジャンボタニシ

在来タニシ



(左上写真)食害された水田
(右上写真)水稻に産み付けられた卵塊
(下写真)ジャンボタニシ(左)と在来タニシ(右)の違い
ジャンボタニシは、殻径・殻高がほぼ同じ

主な防除対策

- ①浅水管理：移植後3週間程度、水深を4cm(理想は1cm)以下に維持し、摂食行動を抑制します(水中でしか摂食ができない性質を利用)。
- ②薬剤防除：移植時に登録農薬を散布することで、貝のほ場密度を下げます。
- ③農業機械の洗浄：発生ほ場での作業後、機械についた泥をしっかりと洗うことで、未発生ほ場への貝の持ち込みを防止します。

※①～③の対策のほかにも水稻の中苗・成苗植えや田畑輪作など様々な対策がありますので、詳しくは農林水産省発行「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植水稻)」(<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/index.html>)を参照いただくか、当課までお問い合わせください。



農業排水、農作業事故の対策を!

1.びわ湖にやさしい農業を

代かき・田植えの時期は、農業排水の流出による琵琶湖への影響が懸念されます。流出を防ぐため、①田面の均平作業、②畦畔、排水口からの漏水防止、③水を入れすぎない、適量入水、④浅水代かきの励行、⑤田植え直前の落水の禁止の5項目を徹底しましょう。さらに、緩効性肥料に使用されている「被覆肥料殻」の流出にも注意が必要です。上記5項目に加えて、ほ場に浮いた殻を網で回収するなど、流出防止を心がけてください。

また、肥料袋やあぜ波板などの「農業用プラスチック」は、不法投棄や野焼きを行った場合、法令違反となり罰則の対象となります。使用後は風などで飛散しないよう注意し、適切に処分しましょう。

2.農作業事故を防ぐために

毎年、全国で農作業中の死亡事故が発生しています。農業機械の事故防止のため、周囲の安全確認と必要な装備(ヘルメット、メガネ、手袋、マスクなど)の装着を心掛けましょう。

また、春先でも油断せず、こまめな水分補給や休憩で熱中症を予防しましょう。

